

中学校の通常の学級における基本的な生活習慣を育成するための授業中のルール指導の工夫

— 学級全体と個に対する特別支援教育の考え方を踏まえた支援を通して —

竹原市立竹原中学校 大平 総一郎

研究の要約

本研究は、所属校第1学年の通常の学級（1学級）に対して、特別支援教育の考え方を踏まえた支援を取り入れた特別活動を実施し、学校における基本的な生活習慣、特に授業中のルールを確立させるための効果的な指導の在り方を追究したものである。具体的には「忘れ物」「ベル着」「私語」「立ち歩き」「言葉づかい」「整理整頓」について、視覚的支援や記憶支援、学習意欲の喚起など特別支援教育の考え方を踏まえた学級全体に対する指導及び特別な支援を必要とする生徒に対する個別の指導を行うとともに、アンケートによる意識調査及び行動観察に基づき分析を行った。その結果、学級全体及び特別な支援を必要とする生徒のいずれにおいても授業中のルールを守ろうとする意識の高まり及び行動の改善が見られた。このことから、授業中のルール指導の工夫として特別支援教育の考え方を踏まえた支援の有効性が明らかになった。

キーワード：中学校の通常の学級 授業中のルール指導 特別支援教育

I 問題の所在

1 はじめに

所属校の生徒は、友達との交流を好み、運動会等の学校諸行事や部活動に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、ちょっとしたことから友達とトラブルになったり、授業態度に対する教師の指導に反抗的な態度を取ったりする生徒もいる。

こうした課題に対して、年度初めに学年のルールや生徒会三訓として授業中の態度、忘れ物及び整理整頓などについて指導を行ってきたが定着するまでには至っていない。また、こうした指導においては、特別な支援を必要とする生徒に対してきめ細かな指導上の工夫の必要性を痛感している。

文部科学省（平成24年）の調査では、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合は、6.5%で、その内38.6%の児童生徒はいずれの支援もなされていないと報告されている。

所属校で年度初めに実施した調査によると、第1学年（120名）の通常の学級には、特別な支援が必要と考えられる生徒が学年全体の11.7%を構成しており、これら生徒には、「忘れ物」「ベル着」「私語」「立ち歩き」「言葉づかい」「整理整頓」などに課題が見られる。

2 通常の学級における特別支援教育

（1）学級全体と個に対する指導の工夫の重要性

上記のような生徒に対する指導の在り方として、文部科学省（平成24年）の調査においては、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒を取り出して支援するだけでなく、学級全体に対する指導をどのように行うのかを考えていく必要性を指摘している。具体的には、社会生活上の基本的な技能を身に付けるための学習を取り入れる、理解しやすいよう配慮した授業改善を行うなどの対応を進めていくことを提言している。

また、生徒指導提要（平成22年）では、発達障害のある児童生徒は、個別的な場面よりも通常の学級の集団生活の中でつまずきや困難を示している場合が多く見られ、個別的な支援を効果的に行うためには、学級全体を落ち着いて学べる環境にし、児童生徒たちに学ぶ意欲をもたせることが重要になると述べている。

これらのことから、特別な支援を必要とする生徒に対して指導を行う場合、学級全体に対し理解しやすいよう配慮した授業改善を行うなどの対応を進め、すべての生徒が落ち着いて学べる環境にすることが、個別的な支援を効果的に行うために重要であると言える。

（2）学級全体に対する特別支援教育の考え方を踏

まえた授業中のルール指導の工夫

前述した課題解決のための授業改善を進めるに当たって、先行研究から効果的な取組について整理した。

福島県教育庁相双教育事務所（平成20年）は、言葉での指示や説明を理解するために、動作や絵、写真などの視覚的支援を活用することが有効であると述べている。また、ルールを分かりやすく提示するためには、ロールプレイやゲームなどを通して、ルールに従って活動する場面を設定したり、遊び方や休み時間の過ごし方などの学級でのルールを具体的に示したりすることが有効であると述べている。これらの支援は、見通しをもたせたり、学習意欲の喚起に有効であると言える。

竹野政彦・門西昭臣（平成23年）は、「聞く」指導の工夫として、不必要的音の除去などの聴覚的支援や教室前面の黒板周りの掲示物の整理、活動ごとに机上の不要な物の片付けなどの学習環境の整備の有効性を報告している。

長崎県教育委員会（平成24年）は、生徒が主体的に授業中のルールを守ろうとする工夫として、教師が、なぜこのようなルールを設定するのかについて、生徒全員に説明したり、ルールに生徒の意見を取り入れたりすることなどを挙げている。また、授業中のルールが守られている場合には、褒めたり、点数化したりする、守られていない場合は、授業中のルールを提示して思い出させるなどの段階を踏まえた指導をすることで、生徒自身が自分の行動をコントロールするきっかけをつくると述べている。こうした支援は学習意欲の喚起及び集団づくりに係る工夫と言える。

集団づくりの工夫に係り、河村茂雄（2005）は、授業時間に戻ってこない生徒への対応として、学級全体のルールづくりを提案している。また、忘れ物が多い生徒へのクラス全体への対応では、「みんなで作戦会議」を提案し、忘れ物の解決策を学級全体で考えることで、特別な支援を必要とする生徒を孤立させないことの必要性を提言している。

広島県教育委員会（平成23年）は、学習課題に係るヒントやカード等を提示することで、児童生徒の記憶の保持を支援し、自力解決を促すことができるなど、学習意欲の喚起及び記憶支援の有効性を示している。

こうした先行研究等を踏まえ、学級全体に対して授業中のルール指導を行う上で特別支援教育の考え方を踏まえた工夫の観点を表1に示すように整理し

た。こうした工夫に基づいた指導を行うことは、生徒が指示や説明を理解したり、主体的に授業中のルールを守ろうとする意識を高めたりすることなどに有効であると考える。

表1 特別支援教育の考え方を踏まえた支援の工夫

支援の工夫の観点
① 視覚的支援
② 聴覚的支援
③ 見通しをもたせる
④ 学習環境の整備
⑤ 学習意欲の喚起
⑥ 集団づくり
⑦ 記憶支援

(3) 個に対する特別支援教育の考え方を踏まえた授業中のルール指導の工夫

学習規律の理解に課題のある生徒に対して、月森久江（2006）は、ロールプレイなどを行うことで、生徒は自分の言動や相手の気持ちに気付き、適切な言動を知ることができると述べており、理解を促し深める上で有効な指導と言える。

注意集中に課題のある生徒に対して、竹野・門西（平成23年）は、絵・写真・文字等の視覚的な手掛けたりを添えて指示・説明を行ったり、個別に言葉掛けを行った後、説明を行う等の指導が注意集中を促す上で有効であると述べている。

これらの指導の工夫及び前述の（2）において整理したことを併せると、学習規律の理解、注意集中、短期記憶等に課題があり、特別な支援を必要とする生徒に対して、理解を深めるためのロールプレイ、個別の言葉掛け及びヒントを取り入れた支援等は、適切な言動を理解させたり、自力解決を促したりする上で有効であると考える。

II 研究の目的

所属校第1学年の1学級に対して、学校における基本的な生活習慣、特に授業中のルールを確立するために、特別支援教育の考え方を踏まえた特別活動を実施する。このことにより、その指導の有効性を追究することを目的とした。

III 研究の仮説と検証の視点・方法

1 研究の仮説

所属校第1学年の1学級（通常の学級）に対して、授業中の「私語」「言葉づかい」「立ち歩き」等を改善するため、特別支援教育の考え方を踏まえた特別活動の指導を実施する。このことにより、特別な支援が必要と考えられる生徒Aを含む学級全体

において授業中のルールを確立することができるであろう。

2 検証の視点と方法

特別支援教育の考え方を踏まえた指導の有効性を明らかにするために、授業中のルールを確立することについて検証授業を実施する。具体的には、①検証授業の事前及び事後アンケートの結果、②行動観察を基に分析する。

表2 実態調査の概要

		アンケート調査	行動観察
手続き	調査日	廣岡秀一・横矢祥代(2006)、独立行政法人科学技術振興機構・社会技術研究開発センター「研究開発成果実装支援プログラム」(2011)等の先行研究を参考に、授業中のルールを守る意識を調査するための質問紙(事前・事後アンケート)を作成した。	検証のためにベースライン期として指導前の状況を観察した。また、指導後の効果を判定するため数学及び英語の各3時間において行動観察を行った。
			1回目 平成24年12月19日(水) 2回目 平成25年1月7日(月) 3回目 平成25年1月8日(火)
方法	事後	平成25年1月22日(火)	1回目 平成25年1月17日(木) 2回目 平成25年1月21日(月) 3回目 平成25年1月22日(火)
調査内容		<p>質問紙による調査を四段階評定尺度で得点化し、分析する。</p> <p>4…あてはまる 3…ややあてはまる 2…あまりあてはまらない 1…あてはまらない</p>	<p>調査内容の各事項に対して次のような観察規準を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時に忘れ物をしていない。 ・ベルが鳴り終わるまでに着席している。 ・授業に関係のない話をしない。 ・無断で立ち歩いていない。 ・教師に対して、丁寧語で話している。 ・教科書等は立てて整理し、はみ出していない。

IV 研究の方法

1 対象

所属校第1学年(1学級30人)

2 手続き

(1) 実態調査

指導前後の実態を把握するため、表2に示すようにアンケート調査及び行動観察を行った。生徒Aに対してはチェックリストによる実態把握も行った。

(2) 検証のための指導

(1)に基づき、特別活動において授業中のルール指導に係る学習指導案を作成し、3時間の授業を実施するとともに、チェックリストにおける評価及び授業中のルールを守ることに課題があると判断した生徒Aに対して、個別の指導を行った。

(3) 分析・考察

指導の前後に実施したアンケート調査の結果、行動観察及びワークシートの記述により、分析・考察を行った。

3 学級全体を対象とした授業中のルール指導

(1) 実施計画

- 期間 平成25年1月9日～平成25年1月16日
- 対象生徒 所属校第1学年(1学級30人)
- 対象授業 特別活動(学級活動)

(2) 指導計画及び授業中のルールを確立させるための指導の工夫

表3に示すように3時間の学習内容を設定するとともに、指導の工夫として特別支援教育の考え方を踏まえた支援を実施した。

4 個別の指導

(1) 対象

事前のアンケート結果及び行動観察により個別の指導が必要であると判断した生徒1名(生徒A)

(2) ねらい

生徒の実態に応じて特別支援教育の考え方を踏まえた支援を行い、授業中のルールの理解及びルールの確立を図る。

(3) 実施方法

特別活動(学級活動)の時間における全体指導の際に机間指導において個別に支援を行う。その後、全体指導で実施した授業中のルールの理解及びルールの確立を数学、英語の授業(各2時間)において、当該授業時間に授業のない教師により、集団指導の中で個への指導を行う。

(4) 個別の指導の工夫

チェックシートにおいて、「不注意」「聞く」ことなどに、また、行動観察においてはすべての項目に課題があることが分かった。しかし、当該生徒は事前アンケートにおいて自分に課題があることを認識していないことも分かった。これらの要因は、学習規律の理解、注意集中、短期記憶等に課題があるためと考える。そこで、次頁表4に示すような指導の工夫を行った。

表3 指導計画及び指導の工夫

時	学習内容	目標	指導の工夫：特別支援教育の考え方を踏まえた支援
1	授業中のルールを考えよう (1)ルールの大切さを知るエクササイズ (2)「私語」の改善ポイント (3)まとめ	・学級におけるルールの大切さを理解する。 ・「私語」の改善ポイントを理解し、実践しようとする態度を養う。	① 視覚的支援 ・電子黒板の活用を行う ・絵や写真的活用を行う ・理解を深めるためのロールプレイを行う ・理解を深めるための撮影VTRの確認を行わせる ② 聴覚的支援 ・机や椅子の音や私語等の不必要的音を取り除く ・指示は一文で、後付けの指示は行わない ・指示をする前に、一瞬の間をとる ③ 見通しをもたせる ・学習の流れを決め、それに基づいて授業を行う ・ルールの必要性等、ルールを具体化して教示する ・具体的な活動内容を示す ・班活動における役割や時間配分の明確化を行う ④ 学習環境の整備 ・机の上に不必要的物を出させない ・話しへ手を向けて聞かせる ・机の位置を整えさせる ・教室前面の簡素化を行う ⑤ 学習意欲の喚起 ・記入しやすいワークシートの工夫を行う ・エクササイズ（ゲーム的な活動）を行わせる ・つまずき時における個別の言葉掛けを行う ・授業中のルールが守られていれば褒める ⑥ 集団づくり ・グループ学習を取り入れる ・みんなが納得できるルールづくりを行う ⑦ 記憶支援 ・決定したルールの掲示を行う ・毎日の確認記録表に記入させる ・ヒントタイムの設定を行う
2	授業中のルールをつくろう (1)「言葉づかい」について考える (2)「立ち歩きをなくすための〇か条」を語り合う (3)班での話し合い活動 (4)発表	「言葉づかい」「立ち歩き」の改善に関心をもち、協力して改善策をつくりあげる。	
3	授業中のルールを再検討しよう (1)実施後に感じた良かった点、悪かった点を出し合う (2)ルールの再検討 (3)授業中のルールに関わる個人目標の作成	「立ち歩きをなくすための4か条」に関心をもち、よりよいものにする。	

表4 生徒Aの実態及び個別の指導の工夫

チェックシート ※ 1	実態		指導の工夫	
	不注意	(9)	① 理解を促すために撮影VTRの確認を行う	② 理解を深めるためにロールプレイを行う
多動性・衝動性	(6)		③ 学習意欲を喚起させるため ・つまずきの際に個別の言葉掛けを行う	
聞く	(12)		④ エクササイズ（ゲーム的な活動）を行う	
話す	(12)		⑤ 記憶支援のために ・ヒントタイムの設定を行う	
読む	(10)		⑥ 決定したルールの掲示を行う	
書く	(10)		⑦ 毎日の確認記録表に記入させる	
計算する	(13)			
推論する	(12)			
項目	事前	事前の行動観察※2	事前アンケート	
	事前1	事前2	事前3	
	数学	英語	数学	英語
私語	○	○	○	○
立ち歩き	○		○	○
言葉づかい	○	○	○	○
忘れ物	○	○	○	○
ベル着			○	○
整理整頓	○	○	○	○

※1 () 内はチェックポイントの数を示す。また、支援を必要とする項目にアンダーラインを付している。

※2 課題となる行動が1時間の授業で1回以上見られた場合に○を付している。

V 研究の結果と考察

1 指導の実際

(1) 学級全体

ア 第1時（授業中のルールを考えよう）

第1時では、エクササイズ（ゲーム的な活動）を取り入れ、集中して取り組むクラスの様子と、エクササイズを取り入れずに私語が多い時間のクラスの様子をVTRで確認させた。二つの授業の違いを見せることで、私語が多いという課題に気付かせることができた。エクササイズの途中には、記憶することが苦手でエクササイズの内容についていけなかった生徒のために、部分的にこれまでの問い合わせ返し聞くことができるヒントタイムを準備した。



意識調査の結果を確認する様子



自分たちの状態を比較確認する様子

ヒントタイムでは22名の生徒は聞きもらし、または自信がないということでヒントを利用した。授業の終わりには、図1のルールを守ろう週間【記録シート】の説明を行い、1月22日までの記録を開始した。また、授業において私語改善ポイントをまとめ、それを掲示し、全員で確認した。

項目	1月9日	1月10日	1月11日	1月15日	1月16日	1月17日	1月18日	1月21日	1月22日
	水	木	金	火	水	木	金	月	火
忘れ物	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ベル着	○	○	○	○	○	○	○	○	○
私語	△	○	△	○	△	○	△	○	○
立ち歩き	○	○	○	○	○	○	○	○	○
言葉づかい	△	○	○	○	○	○	○	○	○
整理整頓	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ルールを守ろう週間を終えて感想									
1/9（水）～1/15（火）の感想									
日に日によくなってきた。									
私語が減ってきたけど、									
まだ多いから直さないと									
いけないなと思いました。									
直せるようにがんばります。									
1/16（水）～1/22（火）の感想									
まだ私語があるからなおさないといけない									
と思いました。最初にくらべると、									
とても良くなったと思うので、これからも									
がんばって授業を良くしていきたいなど									
思いました。がんばってつづけます。									

○…守ることができた △…あまり守れていがない ×…守れなかつた
図1 ルールを守ろう週間【記録シート】

- ・体を話し手の方へ向けて聞く。
- ・班内、近くにいる者同士で注意を呼びかける。
- ・分からぬこと、言いたいことは、挙手をして当てられたら話し始める。

私語改善ポイント

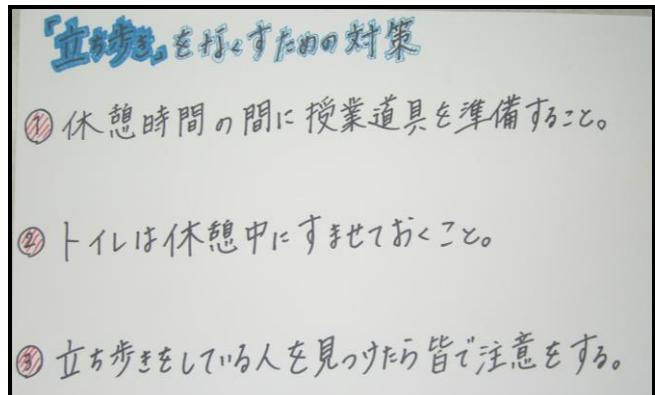
イ 第2時（授業中のルールをつくろう）

第2時では、言葉づかい及び立ち歩きの改善についての学習を行った。まず、言葉づかいの改善に向けて、ロールプレイを通して考えさせた。数名の生徒に目上の役をさせ、目上の人に対して失礼な言葉を言われた時の気持ちについての意見を出させた。その結果、ロールプレイを通して「腹が立つ」「むかつくとする」などの意見が出され、相手の立場に立った考え方できた生徒がいた。また、本時の授業を通して、生徒の中に、これまでの自分は正しい言葉づかいではなかったことに気付いた生徒もいた。

私たち、思っていなくてもつい言葉づかいが悪くなっていたんだなと思いました。これからは気をつけて言葉を言いたいと思います。がんばりたいと思います。

第2時の授業における生徒の感想

次に、立ち歩き改善へ向けて、グループで話合い活動を行った。ワークシートに改善策の例を挙げていたため、個人及び班で話し合う場面においても、スムーズに活動を行うことができた。各班の発表後は「立ち歩きをなくすための4か条」を作成し、授業後に掲示した。



生徒が作成した「立ち歩き」をなくすための対策

- 1 席を離れる時は先生の許可を得る
- 2 授業道具を忘れない
- 3 トイレは休憩時間に行く
- 4 ロッカーの整理をしてすぐに出せるようにしておく

「立ち歩きをなくすための4か条」



ロールプレイの様子

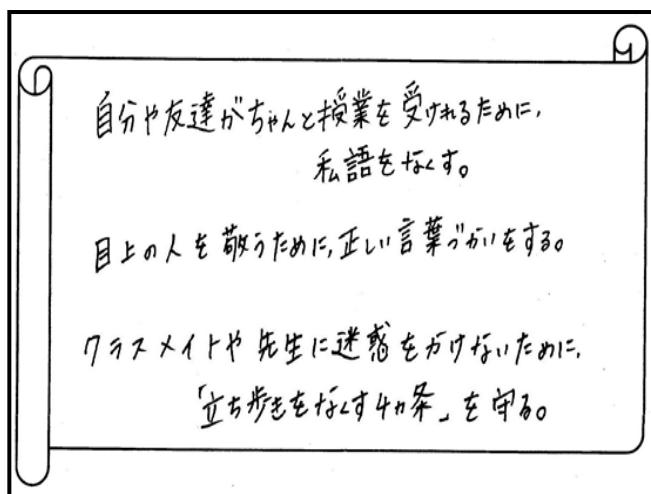


立ち歩き対策の発表

ウ 第3時（授業中のルールを再検討しよう）

第3時では、前時に作成した「立ち歩きをなくすための4か条」を3日間取り組み、意見を出し合った。「やる気になれない」という否定的意見と、「これからも続けられそう」「はつきりと決めることで、簡単に改善できた」「他の課題改善にもつながった」という肯定的意見が出され、話し合いの結果、前時に考えた「立ち歩きをなくすための4か条」のままで今後も取り組むことになった。また、これまでに学習した「私語」「言葉づかい」の改善ポイントについてもこれまでの様子を交流し、「私語」「言葉づかい」「立ち歩き」の3項目すべての改善ポイントの最終確認を行った。授業の最後に、この3項目についての個人目標を決め、今後も継続

して取り組むことを確認した。



第3時に作成した生徒の個人目標

(2) 生徒A

ア 第1時（授業中のルールを考えよう）

エクササイズに関心を示し、ヒントを利用しながら課題に最後まで取り組み、高い正答率を得ることができた。また、VTRで確認することにより、落ち着いて授業に臨むことの良さを周囲の生徒とともに、共感することができた。

記憶支援として、私語改善ポイントの掲示を確認するとともに、第1時の授業実施日から2週間、図1の「ルールを守ろう週間」【記録シート】の記入を、毎日の帰りの会で行うこととした。

イ 第2時（授業中のルールをつくろう）

自分の言葉づかいについては、これまでに教師から指摘されたことが何度もあり、ロールプレイには関心を示しながら授業に参加する姿があった。また、ワークシートの「よく使う不適切な言葉を正しく直そう。」の問い合わせに対しても記述を行っていた。

立ち歩きをなくすための対策では、ワークシートの改善策の例を見て考えていたが、この時期に立ち歩きの課題が減少していたため、自分の課題として捉えることができず、立ち歩きの対策を考えないまま班討議に入った。

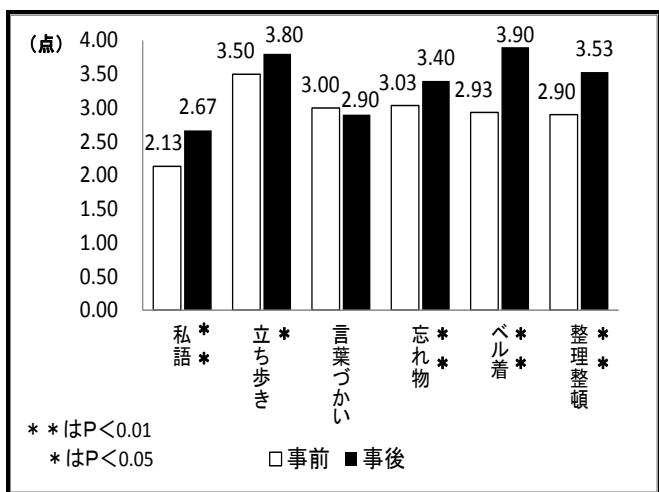
ウ 第3時（授業中のルールを再検討しよう）

班や学級全体での討議に意欲的ではなかったものの、場面ごとの活動に参加し、これまでに学習した内容の最終確認及び教室への改善ポイントの掲示を確認することができた。

2 アンケートの結果と考察

(1) 学級全体

図2に事前・事後アンケートの評定平均値を示す。

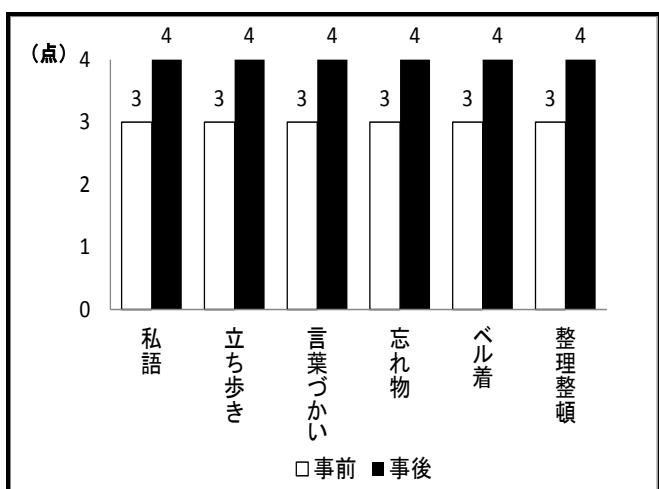


「言葉づかい」以外の項目で評定平均値が有意に高まった。この要因として、生徒が作成した「立ち歩きをなくすための4か条」の中に忘れ物をしないことや整理整頓することも示していることが意識の改善に有効であったのではないかと考える。

「言葉づかい」の評定平均値が事前を下回った要因として、生徒の感想に見られるように、言葉づかいの学習を通して、正しく使っていると思っていた生徒が、正しく使っていなかったことに気付き、事前より低い評価をしたことも要因の一つではないかと考える。

(2) 生徒A

図3に生徒Aの事前・事後アンケートの評定値を示す。



各項目とも1ポイントずつ上昇した。しかし、「私語」「言葉づかい」については、後述する行動

観察の結果と照らし合わせると、当該生徒が質問をよく考えないまま回答したことも考えられる。

3 行動観察の結果と考察

(1) 学級全体

図4に数学、図5に英語における授業中の課題3項目「私語」「言葉づかい」「立ち歩き」に課題が見られなかった生徒の人数を示す。

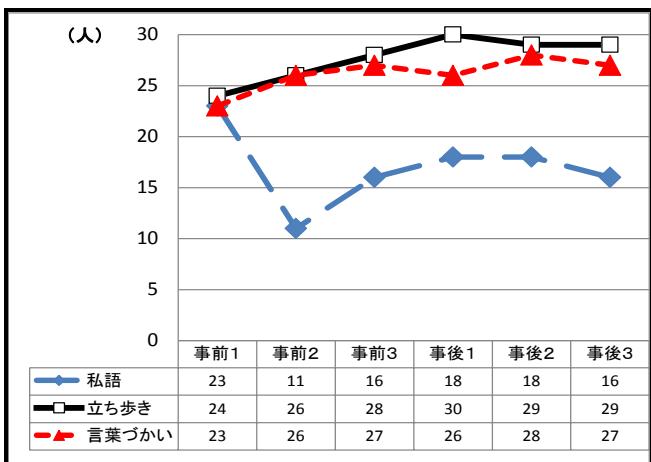


図4 数学における行動観察結果1

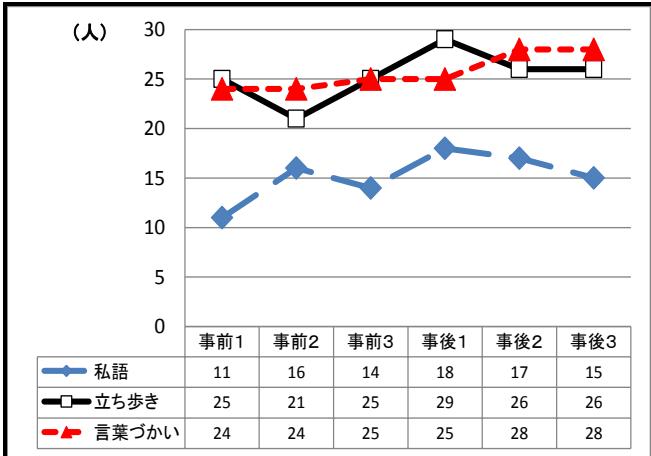


図5 英語における行動観察結果1

いずれの教科においても各項目は概ね改善の傾向が見られたが、両教科の「私語」及び数学の「言葉づかい」の事後3は事後2より低下した。これは、授業中のルール指導終了後1週間が経ち、授業中のルールに対する意識が低下したためではないかと考える。また、記憶支援として有効だと考えていた掲示物を生徒にとってより長期に効果を継続させる支援の工夫が必要と考える。

次に、図6に数学、図7に英語における授業中以外の課題3項目「忘れ物」「ベル着」「整理整頓」に課題が見られなかった生徒の人数を示す。

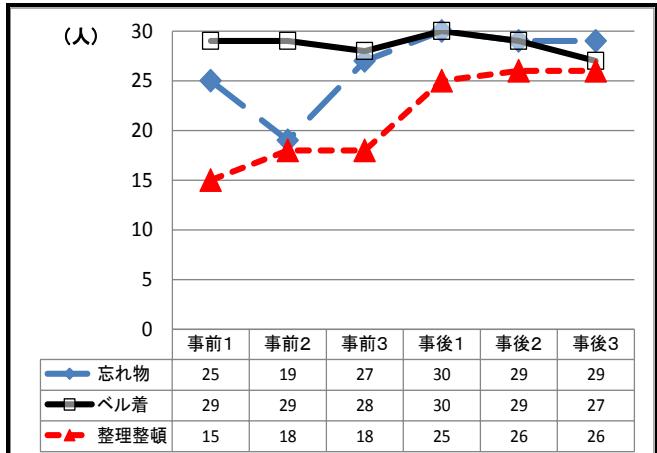


図6 数学における行動観察結果2

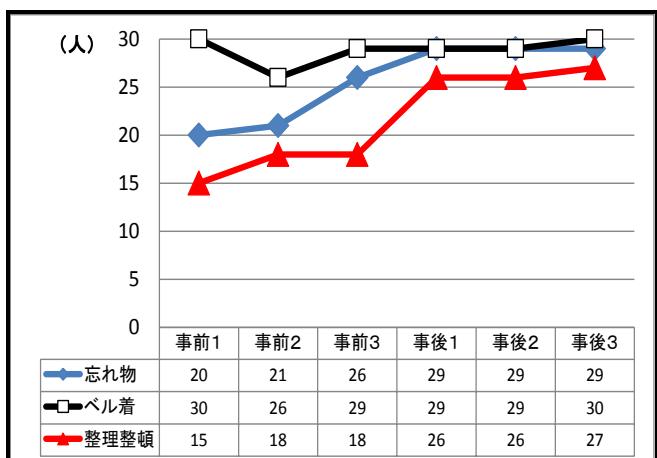


図7 英語における行動観察結果2

いずれの教科においても各項目は改善の傾向が見られた。これは前ページ「2 アンケートの結果と考察」「(1) 学級全体」で示したように、意識の改善が行動として表れたためと考える。

(2) 生徒A

表5は、行動観察の6項目「私語」「言葉づかい」「立ち歩き」「忘れ物」「ベル着」「整理整頓」における課題となる行動が1時間の授業で1回以上見られたものに○を付している。

表5 生徒Aの行動観察結果

	事前1		事前2		事前3		事後1		事後2		事後3	
	数学	英語										
私語	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○
立ち歩き	○		○		○							○
言葉づかい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
忘れ物	○	○	○	○		○						
ベル着					○							
整理整頓	○	○	○	○	○	○						

両教科における「私語」、英語における「言葉づかい」の課題が残ったが、その他の項目については概ね改善が図られた。この要因としては、教室環境の整備、授業で学習したルールを個別指導で確認したことなどが考えられる。一方で、課題として残った「私語」については、短期記憶に課題があり、「私語」をしている認識が薄い生徒Aに対して、今どのような場面なのか、自分はどのような状態なのか、今何をすべきなのかを気付かせる支援が不足していたことが要因の一つとして考えられる。

「言葉づかい」については、短期記憶に課題のある生徒Aが、学習したことをすぐに活用できなかつたことが要因として考えられる。しかし、不適切な言葉を発した後、周囲の生徒に指摘され、言い直す場面があるなど、学習した言葉づかいのポイントを思い出す姿も見られ、指導の継続により改善することが可能であると考える。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 所属校第1学年の通常の学級に対して、授業中の「私語」「言葉づかい」「立ち歩き」等を改善するため、特別支援教育の考え方を踏まえた授業中のルール指導を行うことで、特別な支援が必要と考えられる生徒Aを含む学級全体において概ね授業中のルールを確立することができることが分かった。
- 生徒の意見を取り入れた授業中のルールづくりは、主体的によりよい授業にしようとする意識をはぐくむことに効果的であった。
- 中学校の通常の学級の生徒に対して、アンケート及び行動観察の結果を基にした授業展開は、学級の課題を明らかにする有効な手段となり、その改善に向け取り組もうとする生徒への意識付けとなった。
- 生徒Aにとって、自分の状態を客観的に振り返ることのできるVTRでの確認とロールプレイを取り入れた授業は、学習規律の理解を支援する手段として効果があることが分かった。
- 生徒Aに対して、授業中のルールが守られている場合には肯定的評価を行い、守られていない場合は授業中のルールを提示して思い出させることで、行動をコントロールするきっかけをつくることができた。

2 今後の課題

- 生徒Aの授業中における行動面の改善は概ね見られたが、今後は多くの場面で困難さが克服できるよう、更に生徒Aの実態に合った支援方法を考えていきたい。
- 指導後は時間の経過とともに、行動面の課題が増加する傾向にあった。全ての教科で共通した支援を継続するなど、指導したことにより長期に継続させる指導の工夫を行うことが必要である。
- 事後のアンケート調査において、肯定的回答の生徒が増加したが、事後の行動観察ではアンケート調査ほどの変容は見られなかった。今後は、改善された意識を適切な行動に移すことができるような指導を工夫していく必要がある。

【参考文献】

- 文部科学省（平成24年）：「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」
- 文部科学省（平成22年）：『生徒指導提要』教育図書
- 福島県教育庁相双教育事務所（平成20年）：「特別支援教育 支援ガイド気づきから効果的な支援～No. 1～担任・特別支援教育コーディネーター編～」
- 竹野政彦・門西昭臣（平成23年）：「通常の学級における発達障害のある児童生徒に対する授業改善の研究—一斉授業における『聞く』指導の実施を通して—」
- 長崎県教育委員会（平成24年）：「高等学校における特別支援教育ハンドブック～実践編～」
- 河村茂雄（2005）：『学級担任の特別支援教育』図書文化
- 広島県教育委員会（平成23年）：「通常の学級における特別支援教育『わかりやすい授業づくり 居心地のよい学級づくり』」
- 月森久江（2006）：『教室でできる特別支援教育のアイデア 中学校編』
- 廣岡秀一・横矢祥代（2006）「小学生・中学生高校生の規範意識と関連する要因の分析」
- 独立行政法人科学技術振興機構・社会技術研究開発センター（2011）：「規範意識・規範行動」
- 河村茂雄・品田笑子・小野寺正巳（2008）：『学級ソーシャルスキル C S S』図書文化
- 坂野公信・横浜市学校G W T 研究会（2008）：『改訂 学校グループワーク・トレーニング』遊戯社
- 広島県教育委員会（平成20年）：『特別支援教育ハンドブックNo. 2』「学習面・行動面に関するチェックシート」